

水戸芸術館
ART TOWER MITO

水戸芸術館 一まちの中へ、人のこころに一

水戸芸術館は、水戸市制100周年を記念し、1990年に開館しました。特徴的な塔を持つこの建物の設計は、世界で活躍する建築家の磯崎新さんによるものです。

施設には、コンサートホールATM、ACM劇場、現代美術ギャラリーがあり、音楽、演劇、美術それぞれの分野で、吉田秀和初代館長そして現在は小澤征爾館長を中心に、自主企画による多彩で魅力あふれる事業を展開してまいりました。また地域の文化活動の拠点として、市民と連携して行う様々な企画も実施しています。これからも水戸芸術館は、まちの中にその活動が広がり、人のこころに深く感動を与えることを目指し、活動を続けてまいります。ご支援ご協力くださいますようお願いいたします。



公益財団法人 水戸市芸術振興財団
理事長 森 英恵



音楽、演劇、美術を 身近なものに

水戸芸術館 館長 小澤 征爾

このたび、水戸芸術館の館長に就任いたしました小澤征爾です。

今から約20年前、吉田秀和先生が佐川元市長から運営を任されてこの芸術館を創る時に、吉田先生が私を鎌倉のご自宅に呼んで、室内管弦楽団を組織したいとおっしゃり、つくり上げたのが水戸室内管弦楽団です。それ以来ずっと、ここのコンサートホールで仲間たちと演奏を続けてきました。

まず、水戸芸術館の開館と同時に、水戸室内管弦楽団ができあがった、そのことが素晴らしいことだと思いました。ここが開館した1990年頃、全国各地にホールができましたが、ほとんどが貸しホールみたいなものになっているという状況の中で、建築家の磯崎新さんや照明家の吉井澄雄さんがいて、美術も演劇もやるということで、非常にユニークなことを水戸はやっているという印象を持っていました。

今回お引き受けした理由は、定期演奏会の度に水戸を訪れる中で、水戸室内管弦楽団が市民の皆さんに支持されて、愛されているということが分かり始めたためです。私は、音楽は人が生きる上で絶対に必要なものだとは思いますが、何らかの力を持っていると思います

ので、市の皆さんと協力して、音楽をより身近に感じていただけるようなことが出来れば嬉しいです。

初めてこのお話をお聞きした時に、指揮者が館長をできるかということと、それから健康の問題がありました。病気はいつ再発するか分からないと言われてその検査をずっとして、つい最近に無事卒業という結果が出たので、こうしてお引き受けすることになりました。

もちろん私は指揮者ですから館長という職を務めたことがありませんので、自信があると言われるとそれほどありません。ただ、私の音楽家としての経験から言えば、音楽の場合は市民の方にその活動が受け入れられるということが一番大事なことだと思います。

例えばここのホールは約700席しかありませんから、直にホールの中に来て下さる方は限られています。ですので、小学生や中学生に対して、水戸芸術館から出向いて、学校のホールや他の大きな施設などで演奏を聴いてもらい、あるいは水戸の学校はブラスバンドが優秀ということで、そうした学生とのつながりができると、そのご家族は、子供たちのことを見ていて、必ず興味を示してくれるだろうと思います。ぜひそうした活動を水戸でもさせて頂きたいと思っています。

今後は、これまで吉田先生が水戸芸術館で実践されてきたことを引き継いで、音楽・演劇・美術の3つが効率よく機能して、ますます発展するように関係者一同力を合わせて努めていきたいと思っています。

ここの芸術館には高いタワーがあつてみんなのシンボルになっていますが、館の活動についても街の人たちにもしみわたるようになり、身近に親しんで頂ければ、演奏家の私としてはまったく嬉しいし、本望であります。

世界に発信する開かれた芸術活動の拠点

水戸芸術館 初代館長 吉田 秀和

この芸術館は演劇と美術と音楽という3つの芸術の分野の仕事が、並んで展開されるようにできています。こんなものは、日本だけじゃなく、世界中どこへ行行ったってないのではないのでしょうか。

芸術というものは、今生きているところから、将来に向かって展望して、これから何を作ることができるだろうかとか、また、ぼくたちの人生、社会というものがこのさきどうなってゆくのだろうか、ということを感じたり、予感したり、あるいは予告するような仕事をする側面をもっている。この芸術館では、そちらの面を美術が受け持つ。ここで展示されるものの中には、奇妙きつななものがあるかもしれませんが、それはそれで、ぼくたちの明日のことを示しているのかもしれないし、あるいは明日はこうなってほしくないようにってことをいっているかもしれない。ともかく、ごらんになって下さい。

鈴木さんの演劇の外形は、非常に独特ですけれども、その土台にあるのは、たいていギリシア悲劇とシェイクスピア、チューホフ、ベケットというような、世界の演劇の古典といってもよいものです。それを日本のこれまで生き続けてきた舞台芸術、たとえば、能、狂言とか歌舞伎とかの歩き方とか、声の出し方とか、そのほかのものを使いながら、現代人にとって、非常に重要で、さし迫った問題につながるころのひとつの総合体として舞台に展開するという、そういう仕事をしています。これは、古いものを使いながら、それを自分の創造物に転換してゆくという、芸術にとって基本的な働きを示す仕事にほかならない。いや、これこそ芸術の本体だといってもよろしい。

芸術館は水戸市制100年記念事業の一環として構想されたそうです。100年といえば、日本で、いわゆる洋楽を容れてからもほぼ100年あまり。ちょうど水戸が市になったのと同じ頃、日本でもドレミファでもって音楽をやり、演奏したり、作曲したりする仕事が始まりました。100年間やってきて、どんな意味があったらうか。

もしも、かつて日本で鳴ったことのないような音がここで鳴り、日本人が日本の中にじっととじこもってしまうのではなく、世界に向かって手をひろげて歩いてきた結果が、100年経ったらこうなったんだ、ということになったら、どんなにいいでしょう！それは単に日本が小澤征爾という一人の名指揮者を生み出したとか何とかいう以上の意味をもつのではないか。

また、ぼくは畑中良輔さん、間宮芳生さん、若杉弘さん、池辺晋一郎さんといった4人のすぐれた音楽家に参加してもらって、委員会をつくり、企画運営をやるつもりです。

以上はここでは、こういうものを皆さま方に提供するという予告ですが、芸術の仕事の意味は、実はそれだけじゃ終わらないんです。皆さんがここに来て下さって、それを見たり聞いたりして作品と、問答をしたり、批判したり、共感したり、感激したり、そういうことがあってはじめて、芸術というのはひとつの実りを結ぶことになるのです。

もうひとつ、大事なこと。それはぼくらが提供するものを聞いたり見たりするというだけじゃなく、ご自分もやりたかったら、ここでやっていただく。この芸術館は、水戸の市民のものですから、水戸の市民に当然開放されるべきものです。歌を歌いたくなったら、どうぞここに来て歌って下さい。とにかく、水戸にできたものなのですから、これは水戸の市民の財産です。だから、まず、自分たちのものであるということを感じていただく、そういうふうには仕事をするのはぼくたちの役目です。

芸術館は、どこの誰に対しても、胸襟を開いた存在にならなければいけないと思います。これが、ぼくの、音楽評論家としての哲学だし、それから、ぼくがここに芸術館の館長としている限りにおいて、水戸芸術館のテーゼとして、貫いていきたいと思うのです。水戸のものだけど、視野を水戸だけに閉ざさないでゆき、水戸を超えたものになろうと心がけ、前進することを怠らない。そうやってはじめて、世界の方でもよるこんで日本を、水戸を受け入れてくれるようになるのです。

ひとつ、この水戸芸術館を、水戸のものだが、水戸を超えたもの。世界から受信し、世界に発信する開かれた芸術活動のひとつの拠点にしようではありませんか。これが水戸芸術館の原則です。

※これは、1990年3月21日にコンサートホール ATM で行われた水戸芸術館開館記念式典におけるあいさつをまとめたものです。

運営基本理念

● 新しい芸術文化を創造する芸術館

既成の評価、ジャンルにこだわらず、独自の視点に基づいて活動を行い、未来へ向けて新しい芸術文化を創造する。

● 国際的な視野にたつて芸術文化の交流を行う芸術館

国内はもとより国際的な視野にたつて芸術文化の交流を行い、市民の文化意識の向上と日本の芸術文化の振興に貢献する。

● 楽しみながら考える芸術館

幼児から高齢者まで構えることなくいつでも立ち寄り、それぞれが楽しみながら芸術文化に親しみ、その意味を考えられるような場となる。

● 市民の芸術文化活動の拠点となる芸術館

市民の芸術文化の創造及び発表の機会の提供を行うなど、市民の芸術文化活動の拠点となる。

● 都市の活性化に寄与する芸術館

市民の文化的創造の拠点としてはもとより、都市の核としての各種機能、また、まちづくりと連携して活動を展開し、都市の活性化に寄与する。

運営の特色

● 自主企画を中心に

音楽、演劇、美術各分野の専用空間が空洞化しないよう、自主企画による事業を中心にした運営を行います。

● 専属の楽団と劇団を編成

館から発信する芸術文化活動を象徴するものとして、専属楽団「水戸室内管弦楽団」「新ダヴィッド同盟」、専属劇団「Acting Company Mito = ACM」を編成しています。

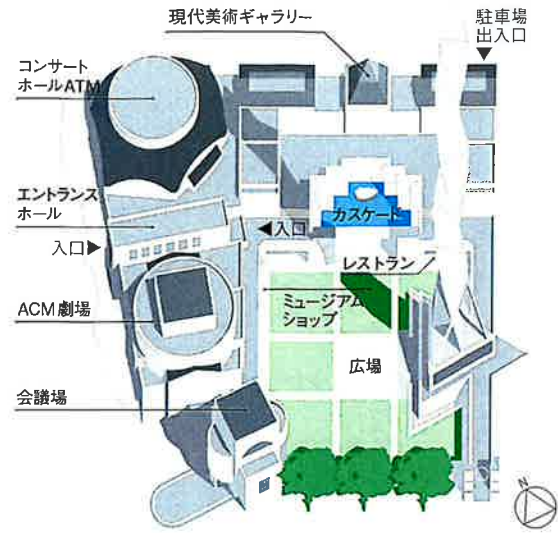
● 財団による運営と市の管理運営及び事業に対する支援

芸術館構想を実施するに当たり、水戸市は「水戸市芸術振興財団」を設立し、芸術館の管理運営と事業について、予算の1%を充てるという方針を立て、その活動を支援しています。

水戸芸術館

水戸芸術館は水戸市制100周年を記念し、平成2年(1990年)に開館した複合文化施設です。特徴的な高さ100mの塔を持つこの建物の設計は、世界的建築家の磯崎新氏が手がけました。

芝生の広場をとり囲むように、コンサートホール、ATM、ACM劇場、現代美術ギャラリーの3つの独立した施設があり、音楽、演劇、美術の3部門がそれぞれに、自主企画による多彩で魅力あふれる事業を活発に展開しています。また地域の文化活動の拠点として、市民と連携して行うさまざまな企画も実施しています。



エントランスホール | Entrance Hall

来館者のための共通の玄関ロビー。残響時間の長い吹き抜けの空間(幅7m、奥行き22m、高さ11m)には、1階にチケット&インフォメーションカウンターがあり、2階には、日本のマナ・オルゲルバウ社製のパイプ総数3,283本、46ストップの国産最大級のパイプオルガンが設置され、週末に無料のプロムナード・コンサートを行っています。



広場 | Plaza

1辺約60mの正方形の広場には、南側に3本の大ケヤキ、正面奥に笠間産の御影石が吊られたカスケード(噴水)が配置され、市民の憩いの場となっています。門や塀がない開放的な空間では「あおぞらクラフトいち」やフリーマーケット、コンサートなど年間を通して数多くの催し物が行われています。



塔 | Tower

塔は市制100周年を記念して高さ100m。外装はチタンパネル製で、1辺9.6mの正三角形57枚を三重のらせん状に組み合わせ合わせたものです。内部構造を見ながらエレベーターで、地上86mの展望室まで昇ることができます。また、ライトアップにより、1年を通してさまざまな色の照明で彩られます。

施設概要

名称	水戸芸術館 Art Tower Mito
所在地	茨城県水戸市五軒町1-6-8
開館	平成2年3月22日
設置者	茨城県水戸市
設計・監理	株式会社磯崎新アトリエ
敷地面積	14,441.40㎡
地域・地区	商業地域、準防火地域
主体構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
建築面積	6,873.91㎡
床面積	16,138.34㎡
階数	地下2階、地上4階
塔	鉄骨造、外壁チタンパネル、高さ100m、展望室86.4m

財団概要

名称	公益財団法人水戸市芸術振興財団
財団設立	昭和63年3月31日 (平成24年4月1日に公益財団法人に移行)
基本財産	1億円 (水戸市全額出捐)

財団組織図



コンサートホール ATM | Concert Hall ATM

3本の大理石の柱が特徴的な六角形の室内楽専用ホールです。優れた音響特性を持ち、中央の舞台を取り巻くように扇形の客席と、ステージの後ろにはバルコニー席が配置され、演奏者の息づかいや音楽の細やかなニュアンスを臨場感豊かに楽しむことができます。

音楽部門

学芸員が独自の視点で構成するオリジナル企画や、国内外から注目すべき演奏家を招いての企画など、質の高い音楽を紹介する活動のほか、地域で活躍する音楽家の活動を支援する企画を実施するなど、地域の音楽文化の活性化にも積極的に取り組んでいます。



客席：620～680席（補助席含）

— 専属楽団 —

吉田秀和 初代館長の提唱により、日本が生んだ最高の演奏家たちによるアンサンブルを世界に向けて発信していくため、専属楽団を結成しました。現在、小澤征爾館長が総監督をつとめる「水戸室内管弦楽団」と、5人編成の「新ダヴィッド同盟」が活動しており、水戸室内管弦楽団は3度のヨーロッパ公演を成功させるなど世界的な評価を集めています。

— 地域の音楽文化に根ざして —

「茨城の演奏家による演奏会企画」や優れた演奏家を発掘し紹介する「茨城の名手・名歌手たち」、幅広い年齢の市民が参加する「水戸の街に響け！ 300人の《第九》」など、地域の音楽文化の活性化に貢献する事業を開催しています。また、「幼児のためのパイプオルガン見学会」「中学生のための音楽鑑賞会」「ちょっとお昼にクラシック」といった、あらゆる年代の方が気軽に音楽に親しめるような工夫を凝らした企画も、年間を通じ実施しています。



新ダヴィッド同盟



「水戸の街に響け！ 300人の《第九》」 2018年



「水戸室内管弦楽団 第100回定期演奏会」(指揮：小澤征爾) 2017年 撮影：大下道治

ACM 劇場 | ACM Theatre

3層の客席が舞台を取り囲む、約300席(基本形状)からなる12角形の劇場です。舞台面は昇降機能により自由に形を変えることができ、現代劇から能や狂言まで対応が可能です。舞台と客席の距離が近いことから、俳優の細かい表情や息づかいまで間近に感じることができます。

演劇部門

注目すべき舞台芸術家が、創造的な活動を行える場となることを基本理念に、優れた舞台作品の公演を行う一方、現代劇や古典芸能の振興、地域演劇の育成をめざしたさまざまな事業を年間を通して企画、制作しています。



客席：300～400席(座席可変)

— 企画事業 —

実力のある演出家や著名な俳優による古今東西の名作、そしてミュージカルから伝統芸能まで多彩な演目を上演しています。また、茨城ゆかりのアーティストを支援する「未来サポートプロジェクト」や、当館独自のプロデュース公演など、ACM劇場の独特な空間を活かしたオリジナル作品を制作しています。

— 教育普及事業 —

「朗読スタジオ」「水戸子どもミュージカルスクール」といった、幅広い年齢層を対象とした各種スクールを通年で実施しています。また、市内の小学生を劇場に招く「小学生のための演劇鑑賞会」や、演出家や俳優によるワークショップなど、日常的に舞台芸術と関われる機会の提供も積極的に行っています。



未来サポートプロジェクト vol.8 音楽劇『夜のピクニック』2016年 撮影：刑部アツシ



平成28年度水戸子どもミュージカルスクール発表公演『雪のプリンセス』2017年 撮影：刑部アツシ



ACM劇場プロデュース公演 水戸芸術館開館30周年記念事業 『勝負前線』～「宮崎の雑誌ノート」より～ 2019年 撮影：田中亜紀

現代美術ギャラリー | Contemporary Art Gallery

大きさと光の状態がそれぞれ異なる、9つの展示室とワークショップ室で構成されています。装飾が最低限におさえられた、簡素で美しいプロポーションの展示空間です。床と壁は、アーティストの想像力が自由に発揮できるように設計されました。作品に応じて自然光を採り入れることのできる展示室があります。

美術部門

世界的アーティストの国内初の本格個展や国際巡回展のほか、日本を代表する作家たちの個展や時代と呼応したテーマによるグループ展等を開催。新しい芸術創造の世界的な拠点となると共に、市民と現代美術の交流の輪を生み出す活動を続けています。



デイヴィッド・シュリグリー「リアリー・グッド」2017年
デイヴィッド・シュリグリー「ルース・ユア・マインドーようこそタークなせかいへ」
2017年 展示風景
撮影：木野恵三 ©David Shrigley

一 企画事業 一

現代美術から建築・デザイン・映像などさまざまなジャンルの表現活動を調査研究した成果として、水戸芸術館の会場特性を生かした独自の個展・グループ展を年4回程度開催しています。また、ラテン語で「基準」を意味する「クリテリウム」企画では、若手作家の作品を中心に紹介しています。

一 教育普及事業 一

幅広い世代の方が現代美術に親しみ、共に考え楽しむための教育プログラムを行っています。市民ボランティアによるギャラリートーク、児童生徒がガイドスタッフとともに鑑賞する「あーとバス」、アーティストによるワークショップなど、多様な創作と対話の場を設けています。



「霧の抵抗 中谷実二子」2018年 展示風景 撮影：山中慎太郎 (Qsym!)



視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「セッション！」2018年 鑑賞風景 撮影：佐藤達絵



「藤森照信展ー自然を生かした建築と路上観察」2017年 展示風景 撮影：山中慎太郎 (Qsym!)

水戸芸術館 概要

(令和4年9月現在)

- 1.名称 水戸芸術館(Art Tower Mito)
- 2.所在地 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
- 3.設計期間 昭和61年(1986年)12月～昭和63年(1988年)2月
- 4.施工期間 昭和63年(1988年)3月～平成2年(1990年)2月
- 5.設置者 茨城県水戸市
- 6.設計 磯崎新アトリエ
- 7.主体構造 鉄骨造(塔)、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
- 8.敷地面積 13,259.90㎡
- 9.地域・地区 商業地域・準防火地域
- 10.建築面積 6,873.91㎡
- 11.床面積 16,138.34㎡
- 12.階数 地下2階、地上4階
- 13.施設

コンサートホール	620～680席
劇場	472席～636席
リハーサル室	3室
展示室	9室 壁面長285m
会議場	78席
塔	100m 展望室86.4m
レストラン・ミュージアムショップ(運営委託)	
- 14.地下駐車場 217台 市営五軒町駐車場
営業時間 7:00～23:00 料金 30分まで無料、1時間まで200円、以下30分ごとに100円
- 15.総事業費 10,355,842千円
- 16.建設経緯 水戸市立五軒小学校が、敷地狭隘のために移転した跡地に市制100周年記念施設として建設された。
- 17.開館日 平成2年(1990年)3月22日
- 18.館長 小澤征爾(初代館長:吉田秀和)
- 19.管理主体 公益財団法人水戸市芸術振興財団
設立:昭和63年(1988年)3月31日
基本財産:1億円(水戸市全額出資)
水戸市は、水戸市芸術振興財団に対して、芸術館の管理運営を委託している。担当:文化交流課
- 20.開館時間
ギャラリー 10:00～18:00(入場は17:30まで)
チケット販売 9:30～18:00
演劇、コンサート開催のときは終了時まで開館。
塔 平日9:30～18:00、土・日・祝祭日9:30～19:00
- 21.休館日 月曜日(月曜日が祝日のときは火曜日)
- 22.使用料 貸し館はしないので使用料の規定はない。
- 23.職員定数

常勤役員	1人
市派遣職員	1人
事務局(総務、広報、経理、舞台技術)	20人
学芸(音楽、演劇、美術)	16人
嘱託職員	5人
ATMフェイス(臨時職員)	52人
- 24.予算 1,023,397千円
- 25.運営の特徴
 - 1.音楽・演劇・美術の専用施設の利用を館独自のプロデュースによって企画運営していること。
 - 2.館から発信する芸術文化活動を象徴するものとして、専属楽団「水戸室内管弦楽団」、「新ダヴィッド同盟」、専属劇団ACM(Acting Company Mito)などを編成していること。
 - 3.水戸市は芸術館の管理運営について、毎年度一般会計予算の約1パーセントを充てるという方針をたて、その活動を保証していること。